第 36 回 日本医療薬学会年会 シンポジウム(11/22)のご案内

謹啓　時下、先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
さてこの度、「第 36 回日本医療薬学会年会」の 11 月 22 日において、
下記の通りシンポジウムを開催の運びとなりました。
詳細は、ホームページ(https://www.c-linkage.co.jp/36jsphcs/index.html)をご覧下さい。
先生方のご参加を心からお待ち申し上げます。　謹白

記

■ シンポジウム 026　薬剤師に求められる認知症医療の理解―病態生理・治療・社会資源活用―

・開催日時：11 月 22 日（日）9：30～11：30
・座長：松尾裕彰 先生(広島大学病院薬剤部)、赤下 学 先生(金沢大学附属病院薬剤部)
・シンポジスト
溝口博之 先生(名古屋大学医学部附属病院薬剤部、名古屋大学院医学系研究科医療薬学)
「認知症の病態と薬物療法ー薬剤師の役割ー」
出川えりか 先生(埼玉精神神経センターー薬剤部)
「広がる認知症治療の選択肢　当院での使用経験からの考察」
池田里江子 先生(ふれあい薬局飯能店、(一社)埼玉県薬剤師会、公益社団法人 日本薬剤師会)
「地域包括ケアシステム構築から重層的支援へと変わる地域において
薬局として地域に関わることの意義を考える」
土井信幸 先生(高崎健康福祉大学薬学部)
「介護保険法施行から四半世紀、認知症医療における薬学の役割を考える」
黄倉 崇 先生(帝京大学薬学部)
「薬剤服用歴情報を活用した抗コリン薬の認知症発症リスク解析」

■ シンポジウム 035　精神科領域の見逃せない問題を考える～様々な場面における新たな取り組み～

・開催日時：11 月 22 日（日）13：20～15：20
・座長：渡邊真知子(東京大学薬学部、鈴木慈光病院薬局)
山田清文（名古屋大学、藤田医科大学　精神・神経病態解明センターー）
・シンポジスト
加藤 剛(所沢慈光病院薬局)
「抗精神病薬多剤大量の処方適正化～統計士の知識を活かす～」
渡部和幸(亀田総合病院薬剤部)
「臨床検査値から考える抗精神病薬使用中の患者に対する薬学的マネジメントの実践」
五味和彦(長野県立こころの医療センターー駒ヶ根薬剤部)
「認知症を中心とした高齢者精神疾患における薬物療法と剤形特性を踏まえた臨床的意義」
川名三知代(帝京大学薬学部社会薬学研究室、公益社団法人 日本薬剤師会)
「小児の精神疾患の現状と薬学的ケアの課題― ADHD 薬物療法を中心に」
桑原秀徳(瀬野川病院薬剤課)
「精神科薬物療法をどのように学ぶか？～精神科病院での研修の取り組み～」

― 問い合わせ先 ―

医療法人社団幸悠会　薬剤部　加藤 剛 (FAX：04-2922-2934、E-mail：pharm11@kouyukai1968.or.jp)